

カトリック行橋小教区：主任司祭 ベリオン・ルイ神父

—教会ってだれ？—

6月5日行橋で、12日は豊津で、信徒総会が開かれ、6月19日は小教区の親睦バスハイクが行われます。それを契機にして「教会」について少し考えてみてはどうかと思います。



*「教会は冷たい」「敷居が高い」「面白くない」。このような言葉はどこの小教区に行ってもいつかは耳にする言葉です。一年のせいか、長い間色々見てきたからでしょうかわかりませんが、この頃のような批判に素直に耳を傾けることに苦勞しています。その言葉を時折「言い訳」のように聞こえるからでしょうか。

*—教会ってだれ？—

●用事がある時にのみ教会を訪れ、人との関わり合いを避けるかのように振るまい、積極的に協力しないのに一生懸命に尽くしている人たちを好意的に評価することが出来なければ、どんな「教会」を築き上げることができるでしょうか。—父の言葉を思い出す。「お前の生まれつきの顔に対して責任がない。しかし、人に見せる顔に対して責任がある」と。＝「教会」という言葉は私たち一人ひとりを指しているのではないのでしょうか。

●「共同体」としての「教会」は、私自身をも指していることをもっと認識すべきではないかと思ひます。「教会」は「面白くない」と不満をもらすよりも、笑顔で兄弟と接すること、「教会」は「冷たい」と嘆くよりも、兄弟を暖かく思いやること、兄弟を批判するよりも、自分の好き嫌いの感情を乗り越え、人を理解し、受け入れることに力を注ぐことの方が、キリスト者に相応しい態度ではないでしょうか。—もちろん、そのために、相手を「兄弟」として見るのが求められます。



●「共同体」からしてもらうことを期待し、当てるに
 以前に、「共同体」に任せ、「共同体」のために何
 が出来るかを考えることは望ましいキリスト者の姿
 です。



一人ひとりの努力と協力がなければ「共同体」とし
 ての「教会」は成り立ちません。他人にその努力を
 要求しながら、自分自身が協力する意志が毛頭
 なければ、その態度が問われても仕方がないでし
 ょう。



＝「教会」は強制ではなく、自由の場であるだけに、
 自分の方から進んで、自発的に協力しなければ、
 「楽しい『教会』」、「暖かい『教会』」、誰でも
 「気軽に入ることの出来る『教会』」は生まれてきま
 せん。



* 行橋小教区の皆さんも、イエス・キリストが望ま
 れる「共同体」を築き上げるために今日まで随分
 努力を重ねてきたことを思うと本当に嬉しく思いま
 す。

今後ともに、その理想を目指して励み続けることが
 できるように心からお祈りいたします。